



War Cry

3月号

福音版
2024
March
No.2866

二〇二四年 三月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

GOOD NEWS と きの こ え



「イースター」 おめでとう! の意味は?

西村 保

イースター(復活祭) おめでとうございます。

「イースター」という言葉は、テーマパークのイベントや、そのテレビCMなどでお聞きになったことがあると思います。しかし、その意味は? と問われると、あまりご存じでない方が多いのではないのでしょうか。

イースターは、イエス・キリストがよみがえられたことをお祝いするキリスト教のお祭りです。私たち人間の罪のために、罪のないイエス・キリストが身代わりとなって十字架にかかって死なれ、そして三日目によみがえられたからです。

私は法律を犯していないから罪はなく、キリストの死は私の身代わりではないとおっしゃられるかもしれませんが、ここで言う「罪」とは、神様を信じないで自分勝手に生きることであり、神様の喜ばれないこと(的外れ)は、みな罪なのです。法的に裁かれることはないとしても、すべての人間がこの「罪」の心をもっています。

そうした私の罪が赦されるために、身代わりとなって死んでくださったイエス様が、三日目によみがえられました。このことは、何を意味しているのでしょうか?

生まれてきた人間には、すべての人に「死」が定められています。短命な方も、長生きの方もおられますが、永遠に生き続けることはできません。イエス・キリストがよみがえられたことは、「死」に打ち勝たれたこと、すべてに勝利されたことを意味します。

イエス・キリストは「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る」(ヨハネによる福音書 14章18節)とおっしゃいました。もし、十字架の上で死んで終わりなら、私たちの罪は赦されたとしても、その後、私たちがどのように生きていかわからなくて、悩み苦しむだけになってしまうでしょう。

イエス様は死に打ち勝ち、すべてに勝るお方となられ、そして、私たちといつも共にいてくださるということをお教えてくださいました。人生には辛いこと悲しいこと、理解できないことがたくさんあります。そのどんな時もイエス様と一緒にいて、共に歩んでくださるお方です。嬉しい時、楽しい時、共に喜んでください。辛い時、悩む時、泣きたい時、倒れる時、病の時、イエス様は私たちが抱きしめ、平安を与えてくださいます。

よみがえってくださったイエス様がおられるゆえに、「ハッピーイースター、イースターおめでとうございませう」なのです。

また、死に打ち勝つ、ということは、「永遠」ということを示しています。「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書 3章16節)

イエス様は信じる者に救いを与え、永遠の命を与えてくださるのです。この世にあっては「死」ということは避けられません。しかし、「イエスは言われた。『わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる』」(ヨハネによる福音書 11章25節)

と聖書に書かれているように、神様の備えられた天の御国で、イエス様と共に暮らすことが約束されているのです。

今年のイースター、お一人おひとりに、神様の祝福が与えられるようにお祈りいたします。

(救世軍士官(伝道者))

きょう 今日も愛され、ゆる 赦されて いる感動をもって



ナイト de ライト ドラマー
札幌新生キリスト教会牧師 田中 満矢 さん

札幌を拠点に活動する、希望を歌うロックバンド「ナイトdeライト」。ドラムを担当する田中満矢さんに、主イエス様との出会い、日々、イエス様と共に過す喜び、バンドを通して表される神様の働きについて、お聞きしました。

あなたのことは全然知らない?!

僕は牧師の家庭に生まれ、一階が教会で二階が自宅という環境で育ちました。小学校三年か四年の時にバプテスマ(洗礼)を受けました。でも、日曜日は教会に行っていたし神様を信じてはいたんですが、今思うと中途半端だったなと思います。高校生の頃はバンドブームで、教会にドラムセットやギター、ピアノがあったので、しょっちゅう友達が来てバンド練習をしてました。高校二年生の頃、自分の夢一生懸命やれることって何かなと思った時、ドラムだと思いました。でも音楽を人生をかけてやるべきなのは迷っていました。迷いの中で、本当に人生かけてやるべきなんだったら、音楽の専門学校より、神様にちゃんと聞かないといけないと思ひ、二十二歳の時にアメリカのダラスにある聖書学校に留学しました。賛美と音楽が有名な学校ですが、そこでの最初の一年が大きな転機となりました。あ

言葉が自分に突き刺さってきたんです。

「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしはきつぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。』」(マタイによる福音書7章21、23節)という箇所です。神様から、「あなたのことをわたしは全然知らない」と言われた気がしたんです。

「そんなわけではない!」と思いました。牧師の子として育って、聖句も知っているし祈ってきたし、神の御子イエス・キリストが僕の罪の身代わりに十字架にかかってくださったことももちろん知っている。こうして神学校に来てさえる。そんな自分に、どうということだろうか? : その時、自分は、イエス様のことを知ってはいるが関係を結んでいなかった、ということに気づかされたんです。

「わたしは、知識や情報のつながりじゃなくて、あなたと本当に一対一の、特別な生きた愛の関係を結びたいんだ」という、神様からの迫りとし

て、御言葉が響きました。ああそうか、キリスト教って宗教じゃないんだ、今も生きておられるイエス様との親しい愛の関係なんだ、ってその時気づかされたんです。

それから、誰に言われるからでもなく、本当に自分自身が神様の前に出て、今も生きていけるイエス様と関係を築きたいという思いが強くなりました。それで、朝、ルームメイトよりも少し早く起きて、プールサイドで聖書だけ持って、主イエス様との一対一の時間を過ごすようになりました。聖書学校の三年間、カリキュラムももちろんすばらしかったけれど、自分のあり方、生き方を本当に変えたのは、その朝のひと時だったなと心から思います。好きな人との時間が飛ぶように過ぎるようにな、って言うぐらい、生活の中で一番の楽しみになりました。それは今でも変わっていません。

それまでは、自分の目から見る自分を好きではありませんでした。弱いし、たくさん過ちを犯してきて、人を傷つけて。そんな自分を受け入れなくて好きになれない。でも、その自分を、神様は、本当に愛おしく、とんでもない特別な宝物のように見ていてくだ

何のために音楽をするのか

さる。期待し、信頼して愛してくださっているっていうことを、その朝の時間を通してだんだんと知っていききました。神様と一緒に時間を過ごし、祈って自分の心を正直に言い、聖書の御言葉に励まされて立ち上がる経験を繰り返す中で、神様のまなざしに映る自分を知っていききました。そして自分でも生きていけるようになったんです。こんなに愛されているんだから、自分も同じように自分のことを見ていこう、そう思えた時に、神様の愛、イエス様の十字架の贖いっていうのが、全身に染みわたっていききました。そうやってイエス様との関係を築き、救いの喜びに気づかされていったのが、二十二歳のシーズンでした。

同じその年、実は僕はドラムに一切触れず、学校での賛美チームのオーディションにも落ち続けました。ドラムは自分のアイデンティティで、一番頑張ってきた、誇りたいことだったので、プライドや自分自身というものが崩れ去って行くようでした。誰も自分のドラムを必要としない、と落ち込む中で、神様は、「わたしはドラムがあるから

田中満矢さん プロフィール

ドラマー・牧師。北星学園大学卒。Christ For The Nations Instituteに3年間留学。札幌新生キリスト教会牧師、希望を歌う4人組ロックバンド「ナイトdeライト」のドラマー。ユースパスター（若者担当牧師）として12年間、若者の居場所づくりに励み、ブログとラジオ「みちや牧師の悩み解決事務所」では、寄せられた多くの悩みに向き合ってきた。近著『いいんだよ、昨日までのこと全部。一心が軽くなる31のアンサー』（いのちのことは社・フォレストブックス 1,210円）好評発売中。「ナイトdeライト」はヴォーカル：平野翔一、ギター：三橋憲之矩、ベース：長沢紘宣、ドラム：田中満矢。3年連続 Zepp 東京・大阪・札幌単独ライブを大成功させる。国際飢餓対策機構親善大使、北海道いのちの電話のテーマソング担当など、様々な形で明日への希望を発信中。FM ノースウェーブ「ナイトdeライトリビング」毎週日曜 21時から放送中。オフィシャルサイト <https://www.night-de-light.com/>



「いいんだよ、昨日までのこと全部。一心が軽くなる31のアンサー」(いのちのことは社・フォレストブックス 1,210円) 好評発売中。

「ナイトdeライト」はヴォーカル：平野翔一、ギター：三橋憲之矩、ベース：長沢紘宣、ドラム：田中満矢。3年連続 Zepp 東京・大阪・札幌単独ライブを大成功させる。国際飢餓対策機構親善大使、北海道いのちの電話のテーマソング担当など、様々な形で明日への希望を発信中。FM ノースウェーブ「ナイトdeライトリビング」毎週日曜 21時から放送中。

オフィシャルサイト <https://www.night-de-light.com/>

YouTube ▶

その音楽の力で、主イエス様

ストレートに働きかけて、明るい気分にも、逆に荒んだ思いにも導くことができます。

音楽には力があって、心に分だけじゃなくて、目の前にいる人が主イエス様と出会うために音楽がある、と気づかされたんです。

あなたを愛しているんじゃない、あなた自身との関係を求めているんだよ」と、僕の生きる土台を据えてくださいました。それまでは、ドラムを叩くのは、自分を見てほしい、承認欲求を満たすためという部分があった。でも、そんな空しいことのために音楽をやる必要はないんだよとわかった。自分には神様を愛する道具としてドラムが与えられていて、一打一打を通して、イエス様を愛する心を献げていくことができる。そして自分だけがなくて、目の前にいる人が主イエス様と出会うために音楽がある、と気づかされたんです。

ナイトdeライトの歩みを通して

ナイトdeライトの結成は二〇〇六年で、「なんかやるか」「おう、やろうやろう」みたいな気楽なものでした。初め

を思う心に、主と共にいることに人を招くことができるなら、無限の可能性があると思っただけです。主イエス様は人を救い、解放し、癒してくださる。すべての人の必要を満たしてくださる、この主のもとに人々を招くために音楽が、僕の情熱が用いられるなんてこれは人生献げる価値があるじゃないか、って思いました。ドラマーとして献身していいことと思えたのです。そして、二〇〇九年に帰国して、自分の教会で若者のための働きと、音楽で仕えていくことを始めました。

四人でライブしたのが二〇〇六年五月です。ボーカル担当の平野はその時はまだ救われていませんし、自分はその年にアメリカ留学に行きました。その後他のメンバーもそれぞれ神学校に行ったりして、住む場所もばらばらになりました。自然消滅してもおかしくなかったところを、神様は、バンド結成という事実を先に置いてくださって、もう一度四人全員が札幌に戻った二〇一一年まで、一人ひとりが神様との関係を結ぶ者として立つために、大切な時間を与えてくださいました。

バンドの歩みは、ああ、これは神様の許された働きなんだというのを体験する連続でした。まず平野が救われたことは、本当に神様が祈りに応えて実現してくださったことでした。それを通して、この働きをやっていっていいんだという安心を得ました。

二〇一一年には、それぞれの働きをしながらも、音楽の面での声かけをいただく機会が増えてきました。フルタイムで音楽をやることについて、メンバーそれぞれの家族から、「祈ってるからやったらいいよ」という言葉をもらい、二〇一二年、「終わらない夢」という曲がコンサドール札幌の公式テーマソングになったことが一つのブレイクスルー

になって、音楽業界に名前を知ってもらえたんです。それから本当にいろんな出会いがあった。忘れられないことはたくさんあります。例えば、「明日への歌」という曲を聞いて、生きたいと思っただけというコメントをツイッターでくれた人がありました。死を考えていた、本当に切実な状態で、自分はこの音楽に救われた、とそういう言葉を聞くと、これは人の業じゃないなってつくづく思うんです。僕たちの使命聖句は、

「：闇から光に、サタン
の支配から神に立ち帰らせ
よ。」(使徒言行録26章18節)

という言葉です。暗闇の中で本当に死と隣り合わせだった人が、生きることを選び取って、今度は誰かのために生きていって、そういう文章をネットにあげている。それはもう本当に、神様が働いてくださっているんじゃないかと思えない。

人の歌とかエンターテイメントとかっていう領域じゃない。神様が許してくださった、そういう働きなんだと思わせる体験を、要所要所でしてきました。

「Zepp なんば大阪」でのライブもその一つです。大きな会場で、しかも、アップトゥエーという入場料を定めない形式で、超大赤字のリスクを背

負っていました。日程もなかなか決まらず、やめるべきなのかと思っている中、四人でレコーディングしている時に、希望していた日程が急に可能になったと連絡が来ました。神様は、僕らが心合わせてライブに向かっていたように、四人そろっていたその時に道を開いてくださったと思います。それで一致してライブに臨み、結果的には赤字どころか、大成功のうちになりました。

最初から今まで、踏み出した一歩に神様が「あなたはわたしの歩みに加わっているんだよ、安心してついて来なさい」と言ってくださっているような出来事ばかりです。だからこれからは大丈夫だろうと。神様が許してくださる間働こうと思っています。

主イエスの勝利の矢を放ち続ける

ある時からすごく自分の中でテーマになってるのが、「矢を放て」ということです。僕の名前も「矢」が入っているんですけど。聖書に「主の勝利の矢」(列王記下13章17節)という言葉があります。

僕はドラムセットのところにいるので、ステージの上で身動き取れないんです。一番お客さんと距離があって、他のメンバーが走り回ったりしても僕は動けない。でも、あ

る人が、「満矢の一打一打は矢なんだよ」と言ってくれました。「どんなに遠くても飛ばすことができる。それはサタンにとっては震え上がるような、主の勝利の矢だし、人々の魂にとっては救いの矢なんだよ」って。それからはずっと、そのメッセージを心に留めています。今は、スマホから音楽もラジオも聞くことができます。ステージに限らず、どんなに遠くからでも、主の勝利の矢を飛ばすことができるとすね。

主との親しい関係の中を、日々喜んで感謝して歩む時に放つべき矢が満たされていくんです。僕自身が何かやらなきゃと一生懸命になっても、疲れ果ててしまいます。自分が何かするというより、今日も愛されてるんだ、今日もこんなに赦されてるのだから、神様の言葉に誰よりも自分自身が感動している時、不思議と語るべき言葉や奏でたい音があふれてきます。

音でも、言葉でも、文章でも、どんな形でもいい。主が放てと言われるタイミングで与えられたこの福音の感動を放ち続けていけばいいんだと思っています。その時に必ずサタンに勝利し、魂に刺さっていく福音の矢、主の愛がある。そこに希望をもつようにと励まされています。

* J1リーグに所属するプロサッカーチーム

創立者 ウイリアム・ブース 大將 リンドン・パツキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈日本〉 ●令和6年能登半島地震被災地への支援活動、緊急社会鍋

「令和6年能登半島地震」で犠牲となられた方々を覚えて深く哀悼の意を表します。また、この地震により被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

救世軍は、キリスト教会の横断的な災害支援ネットワークを通じて、支援に加わっています。発災後すみやかに、「全キ災」(キリスト全国災害ネット)の要請に応え、石巻クリスチャンセンターのステイブン中橋氏を救世軍中央災害資金の支出で一カ月程度派遣し、現地での情報収集とボランティアコーディネートをおこないました。また、石川県放送伝道協力会主体の組織に救世軍社会福祉部職員を派遣して、「能登へ



道玄坂での社会鍋



↑オンライン社会鍋はこちらから

ルプ」(能登地震キリスト災害支援会)の立ち上げに協力しました。1月10～16日には他の社会福祉部職員を内灘聖書教会へ派遣し、「能登ヘルプ」での事務的支援や物資配送に対応するとともに、情報収集をおこないました。現地の状況、ニーズを把握しつつ今後の支援策について検討を進めています。

1月17日～19日には東京の渋谷道玄坂で、能登半島地震被災地支援のための緊急社会鍋をおこない、多くのご協力をいただきました。引き続き、救世軍ホームページよりオンラインで社会鍋にご協力いただけます。皆様のお祈りとご支援をお願いいたします。

●社会鍋による支援

昨年末の社会鍋募金に多くのご協力をいただき、ありがとうございました。

寄せられた資金を用いての支援活動が各地でおこなわれています。

福岡小隊(教会にあたる)では生活困窮者への支援を毎月第二月曜日に続けています。40人分を目安に、手づくりのちらし寿司とフードバンク福岡から提供された食品を差し上げています。12月は36人、1月は41人が利用されました。11月からは給食の前に小隊会館内で、短い伝道集会を開いています。



横浜小隊では、1月、2月の毎週水曜日、街頭給食をおこなっています。温めたレトルト食品、衣料品、生活用品等をお配りしています。毎年この活動を続けており、今年は毎回40人ほどの方が受け取られています。



救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が派遣されて活動が始まりました。

毎年春(3月、4月)に救世軍では「克己週間」をおこないます。これは、イエス・キリストの十字架の死に心を向ける受難節の季節におこなわれる募金活動で、海外の救世軍の活動を支えるために用いられます。救世軍のメンバー

が克己、儉約して献金すると同時に、広く社会

の皆様にご協力を仰ぎ募金をお願いしております。寄せられた資金は国際本部を通して各国へ再配分されます。今年、日本の救世軍はラテンアメリカ北部の10カ国を含むいくつかの国の働きを支援します。ラテンアメリカ北部の救世軍では教育や医療の働きを通し、子どもや女性たちの命を守り、生活を豊かにするためのサポートを続けています。多くの人々のニーズに応えるため、皆様のご協力をお願いいたします。



救世軍公報 ときのこえ 発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日 定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円 (税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円 振替 00180-5-4400 発行兼 救世軍 印刷人 代表者 スティーブン・モーリス 編集人 山谷 真 発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 電話 03-3237-0881(代表) Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org 印刷所 ピーアンドエス



聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。 ・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。 ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。